

【表紙】

| | |
|------------|---|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 東海財務局長 |
| 【提出日】 | 平成31年2月14日 |
| 【四半期会計期間】 | 第111期第3四半期（自平成30年10月1日至平成30年12月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社ニッセイ |
| 【英訳名】 | NISSEI CORPORATION |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 長谷川 友之 |
| 【本店の所在の場所】 | 愛知県安城市和泉町井ノ上1番地1 |
| 【電話番号】 | 0566（92）1151（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 常務執行役員 阿部 正英 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 愛知県安城市和泉町井ノ上1番地1 |
| 【電話番号】 | 0566（92）1151（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 常務執行役員 阿部 正英 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第110期 第3四半期 連結累計期間 | 第111期 第3四半期 連結累計期間 | 第110期 |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日 | 自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日 | 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 14,603 | 14,592 | 19,579 |
| 経常利益 (百万円) | 916 | 538 | 1,236 |
| 親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円) | 918 | 361 | 1,211 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 877 | 20 | 1,238 |
| 純資産額 (百万円) | 42,968 | 42,683 | 43,328 |
| 総資産額 (百万円) | 45,683 | 45,041 | 46,463 |
| 1株当たり四半期(当期)純 利益 (円) | 33.12 | 13.03 | 43.67 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 94.1 | 94.8 | 93.3 |

| 回次 | 第110期 第3四半期 連結会計期間 | 第111期 第3四半期 連結会計期間 |
|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自平成29年10月1日 至平成29年12月31日 | 自平成30年10月1日 至平成30年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 (円) | 3.90 | 5.94 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や設備投資に底堅さが見られ、緩やかな回復が続いております。

また、米国経済は企業収益や雇用環境の着実な回復が続いているものの、今後の貿易政策などに留意する必要があります。中国経済では成長に足踏みが見られ、通商問題の長期化等によって景気が下振れするリスクがあります。

このような状況の中、当社グループにおきましては、国内市場では生産設備の自動化や省人化のニーズにより前年並みとなりました。一方、海外市場ではロボット用歯車が減少したものの、中国や韓国での減速機事業の新規顧客の獲得や設備投資需要の高まりにより堅調に推移しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、14,592百万円（前年同四半期比0.1%減）となりました。

利益面におきましては、営業利益は増産対応に伴う設備投資による減価償却費の増加に加えて、新モデル投入のための費用や広告宣伝費の増加等により528百万円（同22.0%減）、経常利益は営業利益の減少と前期に発生した投資事業組合運用益147百万円がなくなったため538百万円（同41.2%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は経常利益の減少と前期に発生した保有株式の売却による特別利益342百万円がなくなったため361百万円（同60.7%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

減速機

国内売上は主に物流向けが好調を維持し、自動車向け工作機械も受注に陰りがあるものの堅調に推移したことにより、8,096百万円（前年同四半期比0.9%増）となりました。海外売上はEV向け二次電池製造設備などにより中国、韓国向けの売上が増加し、2,812百万円（同3.7%増）となり、減速機合計は10,909百万円（同1.6%増）となりました。

利益面におきましては、増産対応に伴う設備投資による減価償却費の増加に加えて、新モデル投入のための費用の増加等により、セグメント利益は362百万円（同30.6%減）となりました。

歯車

国内売上は自動車用及びロボット用歯車の減少により、3,428百万円（同3.6%減）となりました。海外売上はロボット用歯車の減少により146百万円（同27.2%減）となり、歯車合計は3,574百万円（同4.9%減）となりました。

利益面におきましては、経費の削減により、セグメント利益は101百万円（同15.7%増）となりました。

不動産賃貸

愛知県名古屋市内に賃貸マンション2棟を運営しております。売上高は108百万円（同1.7%減）、セグメント利益は64百万円（同5.2%減）となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、424百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 68,256,300 |
| 計 | 68,256,300 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成30年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成31年2月14日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|-------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|-----------|
| 普通株式 | 29,194,673 | 29,194,673 | 東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第二部 | 単元株式数100株 |
| 計 | 29,194,673 | 29,194,673 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|----------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成30年10月1日～ 平成30年12月31日 | - | 29,194 | - | 3,475 | - | 2,575 |

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

| 区分 | 株式数（株） | 議決権の数（個） | 内容 |
|----------------|----------------------------|----------|-----------|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式（自己株式等） | - | - | - |
| 議決権制限株式（その他） | - | - | - |
| 完全議決権株式（自己株式等） | （自己保有株式） 普通株式 1,463,500 | - | 単元株式数100株 |
| 完全議決権株式（その他） | 普通株式 27,712,800 | 277,128 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 18,373 | - | - |
| 発行済株式総数 | 29,194,673 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 277,128 | - |

（注） 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が900株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数9個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 （株） | 他人名義 所有株式数 （株） | 所有株式数 の合計 （株） | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合（％） |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| （自己保有株式） 株式会社ニッセイ | 愛知県安城市和泉町井ノ上 1番地1 | 1,463,500 | - | 1,463,500 | 5.01 |
| 計 | - | 1,463,500 | - | 1,463,500 | 5.01 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,311 | 1,389 |
| グループ預け金 | 5,638 | 5,089 |
| 受取手形及び売掛金 | 4,135 | 3,589 |
| 電子記録債権 | 1,103 | 1,236 |
| 有価証券 | 2,053 | 3,304 |
| 製品 | 269 | 385 |
| 仕掛品 | 1,933 | 2,197 |
| 原材料及び貯蔵品 | 818 | 1,006 |
| その他 | 70 | 72 |
| 貸倒引当金 | 0 | 0 |
| 流動資産合計 | 17,334 | 18,272 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 6,307 | 6,093 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 4,643 | 4,895 |
| その他(純額) | 3,395 | 3,213 |
| 有形固定資産合計 | 14,345 | 14,203 |
| 無形固定資産 | 489 | 442 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 12,819 | 10,595 |
| 退職給付に係る資産 | - | 74 |
| その他 | 1,477 | 1,457 |
| 貸倒引当金 | 3 | 3 |
| 投資その他の資産合計 | 14,294 | 12,123 |
| 固定資産合計 | 29,129 | 26,769 |
| 資産合計 | 46,463 | 45,041 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 788 | 773 |
| 未払費用 | 590 | 651 |
| 未払法人税等 | 297 | 22 |
| 賞与引当金 | 675 | 321 |
| 役員賞与引当金 | 21 | 22 |
| その他 | 534 | 374 |
| 流動負債合計 | 2,907 | 2,165 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付に係る負債 | 43 | - |
| 繰延税金負債 | 99 | 101 |
| その他 | 83 | 91 |
| 固定負債合計 | 226 | 192 |
| 負債合計 | 3,134 | 2,358 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,475 | 3,475 |
| 資本剰余金 | 2,575 | 2,575 |
| 利益剰余金 | 37,351 | 37,047 |
| 自己株式 | 1,286 | 1,286 |
| 株主資本合計 | 42,115 | 41,811 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 968 | 669 |
| 繰延ヘッジ損益 | 1 | 2 |
| 為替換算調整勘定 | 223 | 188 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 19 | 11 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,213 | 872 |
| 純資産合計 | 43,328 | 42,683 |
| 負債純資産合計 | 46,463 | 45,041 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 14,603 | 14,592 |
| 売上原価 | 10,871 | 11,046 |
| 売上総利益 | 3,732 | 3,546 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 従業員給料 | 731 | 722 |
| 賞与引当金繰入額 | 110 | 70 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 16 | 22 |
| 退職給付費用 | 22 | 25 |
| その他 | 2,173 | 2,175 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 3,053 | 3,017 |
| 営業利益 | 678 | 528 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 25 | 33 |
| 受取配当金 | 25 | 25 |
| 為替差益 | 42 | - |
| 投資事業組合運用益 | 147 | - |
| 物品売却益 | 48 | 52 |
| その他 | 18 | 19 |
| 営業外収益合計 | 308 | 130 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 0 | - |
| 売上割引 | 57 | 60 |
| 為替差損 | - | 53 |
| その他 | 12 | 7 |
| 営業外費用合計 | 70 | 120 |
| 経常利益 | 916 | 538 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 1 | 1 |
| 投資有価証券売却益 | 342 | - |
| 特別利益合計 | 344 | 1 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 0 | 0 |
| 固定資産除却損 | 20 | 16 |
| 減損損失 | 30 | 3 |
| 特別損失合計 | 51 | 21 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,209 | 518 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 174 | 24 |
| 法人税等調整額 | 116 | 133 |
| 法人税等合計 | 291 | 157 |
| 四半期純利益 | 918 | 361 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 918 | 361 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 918 | 361 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 56 | 298 |
| 繰延ヘッジ損益 | 4 | 0 |
| 為替換算調整勘定 | 33 | 34 |
| 退職給付に係る調整額 | 14 | 8 |
| その他の包括利益合計 | 41 | 341 |
| 四半期包括利益 | 877 | 20 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 877 | 20 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産及び長期前払費用に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 1,194百万円 | 1,362百万円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり配 当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|-------------|-------|
| 平成29年5月11日 取締役会 | 普通株式 | 277 | 10 | 平成29年3月31日 | 平成29年5月25日 | 利益剰余金 |
| 平成29年11月6日 取締役会 | 普通株式 | 332 | 12 | 平成29年9月30日 | 平成29年11月24日 | 利益剰余金 |

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり配 当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|-------------|-------|
| 平成30年5月15日 取締役会 | 普通株式 | 332 | 12 | 平成30年3月31日 | 平成30年5月28日 | 利益剰余金 |
| 平成30年11月5日 取締役会 | 普通株式 | 332 | 12 | 平成30年9月30日 | 平成30年11月26日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 減速機 | 歯車 | 不動産賃貸 | 合計 |
|-----------------------|--------|-------|-------|--------|
| 売上高 | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,735 | 3,758 | 110 | 14,603 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | - | - | - | - |
| 計 | 10,735 | 3,758 | 110 | 14,603 |
| セグメント利益 | 522 | 87 | 68 | 678 |

(注)セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 減速機 | 歯車 | 不動産賃貸 | 合計 |
|-----------------------|--------|-------|-------|--------|
| 売上高 | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,909 | 3,574 | 108 | 14,592 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | - | - | - | - |
| 計 | 10,909 | 3,574 | 108 | 14,592 |
| セグメント利益 | 362 | 101 | 64 | 528 |

(注)セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(企業結合等関係)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日) |
|----------------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益 | 33円12銭 | 13円03銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円) | 918 | 361 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円) | 918 | 361 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 27,731 | 27,731 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

2【その他】

平成30年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額 332百万円

(ロ) 1株当たりの金額 12円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成30年11月26日

(注) 平成30年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年2月12日

株式会社ニッセイ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 基 之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北 岡 宏 仁

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニッセイの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ニッセイ及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。